

社 会（歴史的分野）

1 調査の対象となる教科書の発行者及び教科書名

発行者の番号及び略称		教科書名
2	東 書	新編 新しい社会 歴史
17	教 出	中学社会 歴史 未来をひらく
46	帝 国	社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き
81	山 川	中学歴史 日本と世界 改訂版
116	日 文	中学社会 歴史的分野
225	自 由 社	新しい歴史教科書
227	育 鵬 社	新しい日本の歴史
229	学 び 舎	ともに学ぶ人間の歴史
236	令 書	国史教科書 第7版

2 教科書の調査研究における観点、視点及び調査方法

観点		視点	方法
(ア)	知識及び技能の習得	① 学習課題の示し方	1時間ごとの学習課題の記載の仕方及び記載例
		② 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫	文化遺産の示し方及び神話・伝承等に関する記載内容
		③ 国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識及び技能を身に付けさせる工夫	日本に影響を与えた文化交流に関するコラム等の数及び内容
(イ)	思考力、判断力、表現力等の育成	④ 見方・考え方を働かせるための工夫	特設ページ等を活用して思考させるための記載例
		⑤ 学習のまとめの工夫	単元末のまとめにおける多面的・多角的に考察させるための記載例
(ウ)	主体的に学習に取り組む工夫	⑥ 単元の導入における工夫	各単元の導入における学習の見通しをもたせるための工夫の具体例
		⑦ 課題の設定、整理・分析、振り返りを展開するための工夫	「身近な地域の歴史」で示している記載の仕方及び調べる手順・方法
(エ)	内容の構成・配列・分量	⑧ 単元や資料等の配列・分量	各時代区分別のページ数
		⑨ 主権者育成のための工夫	古代、近代、現代における民主主義の来歴や人権思想の広がりについての記載内容
(オ)	内容の表現・表記	⑩ 学習内容との関連付けがなされた絵図・写真等の活用	資料の種類（二次元コードを含む）及び掲載数
		⑪ 掲載されている情報を精選し、視点を明確にする工夫	ユニバーサルデザインに関する配慮がなされたフォント・グラフ及びレイアウト等

観点	(ア) 知識及び技能の習得
視点	①学習課題の示し方
方法	1時間ごとの学習課題の記載の仕方及び記載例

	1時間ごとの学習課題の記載の仕方	記載例
東 書	<p>○ 見開きごとにタイトルを「律令国家の成立と平城京」「平安京と律令国家の変化」等の項目で示し、タイトルの上に「なんと立派な、都ができた」「最澄と空海は、新しい仏教を伝えた」等の学習内容を表す副題を示し、タイトルの右横に「どのような」「どのように」といった表現で1時間ごとの学習課題を示している。</p> <p>○ 見開き左のページの下段に「チェック」、右のページの下段に「トライ」を設定し、学習課題に対応した問いを示している。</p>	<p>3節 古代国家の歩みと東アジア世界</p> <p>○ 蘇我氏や聖徳太子は、どのような国づくりを目指したのでしょうか。</p> <p>○ 東アジアの国々との関係の中で、日本はどのような改革を進めていったのでしょうか。</p> <p>○ 律令国家はどのようにしてできあがり、その仕組みはどのようなものだったのでしょうか。</p> <p>○ 奈良時代の土地と税の制度にはどのような特徴があったのでしょうか。</p> <p>○ 奈良時代の文化は、どのような特色を持っていたのでしょうか。</p> <p>○ 平安京に都が移り、政治や社会はどのように変わったのでしょうか。</p> <p>○ 平安時代の政治は、どのような特色を持っていたのでしょうか。</p> <p>○ 平安時代の貴族の文化は、どのような特色を持っていたのでしょうか。</p> <p>【「チェック」の例】</p> <p>○ 律と令は、それぞれどのようなものか、本文からぬき出しましょう。</p> <p>【「トライ」の例】</p> <p>○ 律令国家が全国を支配した仕組みを、次の語句を使って説明しましょう。[太政官／国・郡]</p>
教 出	<p>○ 見開きごとにタイトルを「木簡と計帳は語る」「望月の欠けたることもなしと思えば」等の項目で示し、タイトルの下に「奈良の都と律令制下の人々の暮らし」「平安の都と摂関政治」等の学習内容を表す副題を示している。タイトルの右横に「どのような」「どのように」といった表現で1時間ごとの学習課題を示している。</p> <p>○ 見開き右のページの下段に「表現！」を設定し、学習課題に対応した問いを示している。</p>	<p>4節 貴族社会の発展</p> <p>○ 律令制のもとで、都の貴族や地方の農民は、どのような暮らしをしていたのでしょうか。</p> <p>○ 奈良時代には、どのような特色をもった文化が栄えたのでしょうか。</p> <p>○ 律令政治や貴族の勢力は、どのように移り変わっていったのでしょうか。</p> <p>○ 平安時代には、どのような文化が生まれたのでしょうか。</p> <p>【「表現」の例】</p> <p>○ 墾田永年私財法によって、どのような変化が起こったか説明しよう。</p>

【社会（歴史的分野）】

	1時間ごとの学習課題の記載の仕方	記載例
帝 国	<ul style="list-style-type: none"> ○ タイトルを「揺れ動くアジアと倭国」「律令国家での暮らし」等の項目で示し、タイトルの右横に「どのような」といった表現で1時間ごとの学習課題を示している。 ○ 見開き右のページの下段に「確認しよう」「説明しよう」を設定し、学習課題に対応した問いを示している。 	<p>第3節 中国にならった国家づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 蘇我氏や聖徳太子は、どのような国をつくろうとしたのだろうか。 ○ 倭国（日本）はどのような改革を進めたのだろうか。 ○ 奈良時代の土地と税の制度にはどのような特色があったのだろうか。 ○ 奈良時代には、どのような特色をもった文化が展開したのだろうか。 <p>【「確認しよう」の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 律令国家のしくみを本文から書き出そう。 <p>【「説明しよう」の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 倭国（日本）の目指した国づくりを、大宝律令の特色を踏まえて説明しよう。
山 川	<ul style="list-style-type: none"> ○ タイトルを「律令国家の仕組みと人々の暮らし」「平城京と天平文化」等の項目で示し、タイトルの下に「どのような」「なぜ」等の表現で1時間ごとの学習課題を示している。 ○ ページの下段に1時間の学習内容を踏まえて取り組む「ステップアップ」を設定している 	<p>3節 律令国家の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ヤマト政権は、どのような国づくりを目指したのだろうか。 ○ 7世紀の倭は、なぜ朝廷に政治権力を集中させようとしたのだろうか。 ○ 朝廷に権力が集中する中で、天皇と豪族との関係はどのように変化したのだろうか。 ○ 律令国家は、どのような仕組みで地域と人々を支配したのだろうか。 ○ 中国や朝鮮半島との交流は、奈良時代の日本にどのような影響をあたえたのだろうか。 <p>【「ステップアップ」の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 墾田永年私財法は、律令国家の支配にどのように役立ったのか、考えてみよう。

	1 時間ごとの学習課題の記載の仕方	記載例
日 文	<ul style="list-style-type: none"> ○ タイトルを「奈良の都と人々のくらし」「天平文化と聖武天皇」等の項目で示し、タイトルの右横に「律令に基づく統治のしくみ」「国際色豊かな文化」等の学習内容を表す副題を示している。タイトルの下に「どのような」といった表現で1時間ごとの学習課題を示している。 ○ ページの下段に「確認」「表現」を設定し、学習課題に対応した問いを示している。 	<p>第3節 古代国家の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 奈良時代の政治には、どのような特色があるのでしょうか。 ○ 奈良時代の文化には、どのような特色があるのでしょうか。 ○ 平安時代の桓武天皇による政治には、どのような特色があるのでしょうか。 ○ 平安時代の藤原氏による政治には、どのような特色があるのでしょうか。 ○ 平安時代の国風文化には、どのような特色があるのでしょうか。 <p>【「確認」の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 律令制度や平城京は、どの国にならってつくられ、どのようなしくみになっているか確認しましょう。 <p>【「表現」の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「税」をキーワードにして、律令制度における朝廷のねらいと、当時の人々の生活を説明しましょう。
自 由 社	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見開きごとにタイトルを「律令国家の建設と日本の国号」「古代律令国家の完成と平城京」等の項目で示し、タイトルの下に「どのような」「どんな」等の表現で1時間ごとの学習課題を示している。 ○ 見開き右のページの下段に「チャレンジ」を設定し、学習課題に対応した学習活動を示している。 	<p>第3節 律令国家の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 聖徳太子が新しい政治を始める背景は何だったのだろうか。 ○ 聖徳太子の対等外交と天皇という称号の間には、どんな関係があったのだろうか。 ○ 蘇我氏はどのようにして倒され、天皇中心の国づくりが進んだのだろうか。 ○ 白村江の戦いで敗北は、律令国家の建設にどんな意味をもったのだろうか。 ○ 日本の古代律令国家には、唐の制度と比べてどのような独自性があったのだろうか。 ○ 7～8世紀の飛鳥、天平の文化にはどのような特徴があったのだろうか。 ○ 摂関政治はどのようにして成立したのだろうか。 ○ 平安時代に国風文化が開花したのはなぜだろうか。 <p>【「チャレンジ」の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 唐の律令国家と日本の律令制の違いを説明してみよう。

	1時間ごとの学習課題の記載の仕方	記載例
育 鵬 社	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見開きごとにタイトルを「律令国家への歩み」「平安京と摂関政治」等の項目で示し、タイトルの右横に「どのような」といった表現で1時間ごとの学習課題を示している。 ○ 見開き右のページの下段に「確認」「探究」を設定し、学習課題に対応した振り返る課題を示している。 	<p>第2節 「日本」の国の成り立ち</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 厩戸皇子や蘇我馬子は、新しい国づくりを目指して、どのようなことをしたのでしょうか。 ○ 中国や朝鮮半島との関係の中で、どのような改革を進めたのでしょうか。 ○ 律令国家の下で、人々はどのような暮らしをしていたのでしょうか。 ○ 唐の影響を受けた天平文化には、どのような特色があるのでしょうか。 ○ 平安時代の天皇や貴族の政治は、どのようなしくみだったのでしょうか。 ○ 唐の影響がうすまり生まれた国風文化の特色は、どのようなものなのでしょうか。 <p>【「確認」の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大化の改新は何をめざした改革だったか、その理由と内容について本文からぬき出して書きましょう。 <p>【「探究」の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 律令国家において、中央から各地に国司が派遣された理由を説明しましょう。
学 び 舎	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見開きごとにタイトルを「奈良の都」「北で戦い、都をつくる」等の項目で示し、タイトルの右横に「律令制の成立」「平安京と地方の政治」等の学習内容を表す副題を示している。タイトルの下に「どんな」「なぜ」等の表現で1時間ごとの学習課題を示している。 	<p>第2章 日本の古代国家</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 仏教の導入で、超高層の寺院が出現。そのあと倭国は、ゆるる東アジアにどう立ち向かうのか。 ○ 都に大量の品物が運ばれてきた。どんなしくみができたのか。国の内外にどんな変化があらわれたか。 ○ 口分田で農業に取りくむ人びとは、税としてどんな負担をしいられていたか。 ○ 伎楽や正倉院宝物、鑑真の来日からどんなことがわかるか。歴史書はなぜつくられたのか。 ○ バグダッドにはどんな人たちが集まってきたか。イスラムではどんな文化が生まれたか。 ○ 新しい都・平安京ができた。東北で、都や地方で、どんなことがおこなわれるようになったか。 ○ 紫式部と清少納言はどんなことを書いたのか。このころの文化にはどんな特色があるだろう。

【社会（歴史的分野）】

	1 時間ごとの学習課題の記載の仕方	記載例
令書	<p>○ タイトルを「大宝律令の完成は独立国の証」「日本」を名乗った大宝の遣唐使」等の項目で示し、タイトルの左横に「どのような」「なぜ」等の表現で学習課題を示している。</p>	<p>二 飛鳥時代</p> <p>○ 律令国家はどのように形成されていったのだろうか。</p> <p>○ 聖徳太子はどのような政治を行ったのだろうか。</p> <p>○ 聖徳太子はなぜ隋との対等な外交を目指したのだろうか。</p> <p>○ 大化の改新は政治にどのような影響を与えたのだろうか。朝鮮半島の情勢の変化は日本にどのような影響を与えたのだろうか。</p> <p>○ 律令国家はどのようにして完成段階に至ったのだろうか。</p> <p>○ 大宝の遣唐使はなぜ「日本」を名乗ったのだろうか。</p>

【社会（歴史的分野）】

観点	(ア) 知識及び技能の習得
視点	②我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫
方法	文化遺産の示し方及び神話・伝承等に関する記載内容

	文化遺産の示し方	神話・伝承等に関する記載内容
東 書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料に「国宝」「世界遺産」「重要文化財」「世界の記憶」「無形文化遺産」のマークが付いている。 ○ 第1章2節「身近な地域の歴史」の中で「身近な地域の主な史跡・国宝・重要文化財」を示している。 	<p>【本文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「国家の仕組みが整い、国際的な交流が盛んになると、日本の国のおこりや、天皇が国を治めることの由来を説明しようとする動きが朝廷の中で起こりました。そこで、神話や伝承、記録などを基に歴史書の「古事記」と「日本書紀」が作られました。また、全国に命じて、自然・産物・伝承などを記した「風土記」が国ごとに作られました。 <p>【特設ページ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「現代に生きる神話」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2ページを使い、「記紀神話」の成立」「記紀神話」の展開」「日本の神話と世界の神話」「島根県と神話」「宮崎県と神話」を記載している。
教 出	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料に「世界遺産」「国宝」「重要文化財」のマークが付いている。 	<p>【本文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「律令制が整うなか、文書や記録の作成、情報や命令の伝達などで、貴族や役人は日常的に文字を使用するようになりました。国際的な交流が盛んになると、天皇が日本を治める由来を説明する歴史書として、神話や国の成り立ちを記した「古事記」・「日本書紀」がまとめられました。また、地方の国ごとに、地理や産物、伝承などを記した「風土記」もまとめられました。」 <p>【特設ページ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「神話にみる古代の人々の信仰」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2ページを使い、「日本の神話」「古事記に記された黄泉の国の物語」「神話にみる古代の人々の信仰ともの見方」を記載している。
帝 国	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料に「世界遺産」「世界の記憶」「国宝」「重要文化財」のマークが付いている。 	<p>【本文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「奈良時代初め、律令制の導入によって国のしくみが整ってくると、貴族や僧侶の間で文字を使うことが当たり前になりました。天皇が日本を治めることの正統性を明らかにしようとする動きも起こり、天皇家の由来を説明するための歴史書として「古事記」や「日本書紀」がつくられ、数々の神話がそこへ記されました。また、天皇が支配するすべての土地の地理的な情報を集めるため、産物や地名の由来、伝承などを国ごとにまとめた「風土記」もつくられました。」 <p>【コラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「自然災害と神話」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1ページを使い、「古事記」や「日本書紀」に書かれた「ヤマタノオロチの神話」の内容等について記載している。

	文化遺産の示し方	神話・伝承等に関する記載内容
山川	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料に「世界遺産」「国宝」のマークが付いている。 ○ 巻頭に「日本の世界遺産」を地図等とともに示している。 	<p>【本文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「律令国家が確立すると、天皇の由来や、天皇が国家をおさめる正当性を示すために、歴史書の編さんが行われた。天武天皇が命じた歴史書の編さん事業を引きつぎ、奈良時代には「古事記」と「日本書紀」が完成した。「古事記」は、神話の時代から推古天皇の時代までの、天皇の起源を説明する物語をまとめたものである。「日本書紀」は、中国の歴史書にならって漢文で書かれた日本で最初の歴史書で、神話の時代から持統天皇の時代までの歴史がまとめられた。 <p>このほか、諸国には、国内の産物や地名の由来、古くからの伝承などを報告することが命じられ、国ごとに「風土記」がつくられた。」</p> <p>【コラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「日本の神話」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 ページを使い、「古事記」「日本書紀」「風土記」の内容等について記載している。
日文	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料に「国宝」「世界遺産」のマークが付いている。 ○ 巻末の折り込みに「日本の世界遺産」を地図等とともに示している。 	<p>【本文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「律令国家のしくみが整ってくると、国家のおこりや天皇・貴族の由来などを説明するために、「古事記」や「日本書紀」などの歴史書がつくられました。このほか、全国の国ごとに、自然・地理・産物や伝説などについてまとめた「風土記」がつくられました。」 <p>【特設ページ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「日本の神話」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 ページを使い、「神話とは何か」「古事記」「日本書紀」の神話」「さまざまな神話」を記載している。
自由社	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料に「国宝」「重要文化財」「世界遺産」のマークが付いている。 ○ 巻頭に「日本の世界文化遺産」を地図等とともに示している。 	<p>【本文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「日本の国の成り立ちは、8 世紀に完成した日本最古の歴史書である「古事記」「日本書紀」に、神話の形で書かれています。神話や伝承は超自然的な物語をふくみ、また後世に改変された部分もあって、ただちに歴史的事実として扱うことはできません。 <p>しかし、これらの神話・伝承のものは、古代の人々が、自分たちの住む国土や自然、社会の成り立ちを、山や海への自然崇拜や、稲作祭祀など縄文・弥生以来の信仰なども取り入れながらまとめたものと考えられます。神々が織りなす物語は一貫したストーリーに構成され、大和朝廷の始まりにつながっています。」</p> <p>「712 年に「古事記」が完成し、全 3 巻の中に、民族の神話と歴史がすじみち立った物語としてまとめられました。次いで、720 年には「日本書紀」全 30 巻が完成し、日本国家の正史として、歴代の天皇の系譜とその事績が年代順に詳細に記述されました。」</p> <p>「朝廷は、地方ごとに伝説や地理、産物を調べて「風土記」として記録させました。」</p> <p>【コラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「国譲り神話と古代人」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 ページを使い、「大国主神の「国譲り」」「古代日本人のものの考え方」「姿をあらわす巨大空中神殿」を記載している。

【社会（歴史的分野）】

	文化遺産の 示し方	神話・伝承等に関する記載内容
育 鵬 社	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料に「国宝」「世界遺産」のマークが付いている。 ○ 巻頭や巻末で世界遺産や国宝を地図等とともに示している。 	<p>【本文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「律令国家としての基礎ができあがるにつれ、日本の歴史が書物としてまとめられるようになりました。神々の物語や代々の天皇の業績を記した「古事記」や、国の正史（公式な歴史書）として代々の天皇やその業績を記した「日本書紀」がそれにあたります。また、朝廷の命令によって、各地の地理や産物、伝説などを記した「風土記」もつくられました。」 <p>【特設ページ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「神話に見る日本誕生の物語」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2ページを使い、「日本の神々の物語」「三種の神器と神武天皇」「伝説の英雄が活躍する神話」を記載している。
学 び 舎	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第5章の扉ページ「世界遺産に見る世界」で世界遺産を示している。 	<p>【本文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「朝廷は8世紀の前半に、中国の正史にならった歴史書の「日本書紀」を、神話の記録として「古事記」を完成させました。これらは、古くからの伝承もふくんでいます。天武天皇が、国の統一をすすめる目的で編さんを命じていたものです。 <ul style="list-style-type: none"> 「また、国ごとに言い伝えられたことをしるした「風土記」もまとめられ、出雲国（島根県）や常陸国（茨城県）などのものが残っています。」 <p>【コラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「「常陸国風土記」に書かれた富士山と筑波山」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1ページを使い、常陸国風土記に記された内容等について記載している。

	文化遺産の 示し方	神話・伝承等に関する記載内容
令 書	<p>○ 資料に、「国宝」「世界遺産」「重要文化財」のマークがついている。</p>	<p>【本文】</p> <p>○ 「今から約一三〇〇年前の奈良時代、第四十代天武天皇の命令によって編纂された二つの書物が完成しました。「古事記」と「日本書紀」です。両方を合わせて記紀といいます。「古事記」は日本の神話などの伝承と歴代天皇の事績を伝えるため、また「日本書紀」は日本の歴史を伝えるために編纂されたと考えられています。「古事記」は今に伝わる書物のなかでは日本最古で、そこには、日本列島誕生の神話や日本建国の物語が書かれています。</p> <p>「遷都からまもない和銅五年（七一二）、天武天皇の命令によって編纂された「古事記」が、また養老四年（七二〇）に「日本書紀」がそれぞれ完成しました。同じ時代に二つの歴史書が書かれたのには理由があります。「古事記」は主に日本国内向けで、文学的要素が強く、天皇の根拠を明確にして建国のことを後世に伝える意図があると思われます。一方、「日本書紀」は国内外に向けて正史を伝えるためのものと思われます。「古事記」は万葉仮名と漢文の両方を折衷して書かれているため、主な読者として外国人は想定されていないものと考えられますが、「日本書紀」は漢文（古代中国語）で書かれているため、中国王朝や朝鮮の役人たちも読むことができました。このように書き分けられていることから用途の違いを知ることができます。</p> <p>「古事記」は稗田阿礼が日本各地の神話や伝承などを繰り返し読んで学び、それを太安万侶が文字に表したと伝えられます。「日本書紀」は舎人親王（天武天皇の皇子）が編纂しました。また、朝廷の命により、各地の神話、地理、産物などを記した風土記も編纂されました。」</p> <p>【コラム】</p> <p>○ 「「古事記」の国譲り神話」</p> <p>・ 2 ページを使い、「古事記」の国譲り神話について記載している。</p>

【社会（歴史的分野）】

観点	(ア) 知識及び技能の習得
視点	③国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識及び技能を身に付けさせる工夫
方法	日本に影響を与えた文化交流に関するコラム等の数及び内容

	時代区分 (コラム等の数)	内容
東 書	古代（1）	○ 大陸への玄関口 福岡
	中世（1）	○ 東アジア世界の国々の交流と琉球文化
	近世（3）	○ 朝鮮人陶工と日本の陶磁器文化 ○ 朝鮮通信使が訪れた対潮楼 ○ アイヌの文化とその継承
	近代（1）	○ メディアの発達が日本を変えた
教 出	古代（1）	○ 神話にみる古代の人々の信仰
	中世（1）	○ 宋と高麗
	近世（2）	○ 大海を超える人と物 ○ 野國總管と青木昆陽
	近代（2）	○ 沖縄の歴史を調べよう ○ 北海道の歴史を調べよう
	現代（1）	○ とともに生きていくために
帝 国	古代（2）	○ 上野三碑にみる渡来人の影響 ○ 時代とともに変わっていった衣服
	中世（2）	○ 東アジアに開かれた窓口 博多 ○ 東アジアの美、磁器
	近世（4）	○ 朝鮮半島から伝わった文化 ○ 琉球とアイヌ民族の暮らし ○ 昆布ロードと北前船 ○ ワクチン接種の始まり
	近代（7）	○ 幕府の近代化への対応 ○ 世界に開かれた港 横浜 ○ 「絹の道」と日本の製糸業 ○ 国旗と国歌 ○ 祖国の音楽を紹介したドイツ兵 ○ 人々を魅了した洋菓子文化 ○ 発展する産業都市 大阪・神戸
山 川	古代（4）	○ 中国の記録に見る日本列島 ○ 日本の神話 ○ 神仏習合 ○ 福岡
	中世（4）	○ 海に眠っていた貿易船 ○ 琉球の歴史と文化 ○ アイヌ民族の歴史と文化 ○ 木綿栽培
	近世（2）	○ 砂糖 ○ 園芸文化
	近代（2）	○ 近代日本と女子留学生 ○ 「蛍の光」

【社会（歴史的分野）】

	時代区分 (コラム等の数)	内容
日 文	中世 (3)	○ 宋と高麗 ○ 東大寺の再興と重源 ○ 朝貢と冊封
	近世 (3)	○ つながる世界と生活の変化 ○ 雨森芳洲 ○ 今に伝わる琉球とアイヌ民族の文化の形成
	近代 (2)	○ 近代社会に日本を見つめ直す ○ 日本初の女子留学生と女子教育
	現代 (1)	○ 在日韓国・朝鮮人の歴史とコリアタウン
自 由 社	古代 (1)	○ 世界にほこる女流文学
	近世 (1)	○ 秀吉はなぜバテレン追放令を出したのだろうか
	近代 (1)	○ 日本の近代化とアイヌ
	現代 (1)	○ 水泳ニッポンと 1964 年の東京五輪
育 鵬 社	古代 (1)	○ 日本人の宗教観
	近代 (2)	○ 外国人が見た日本 ○ 世界の平和に力をつくした新渡戸稲造
	現代 (1)	○ 感染症の歴史
学 び 舎	古代 (2)	○ 今も読まれる孔子の「論語」 ○ 中国の歴史書に書かれた卑弥呼
	中世 (4)	○ 博多に住みついた中国商人たち ○ 大仏再建の熱狂 ○ 帯と扇のネットワーク ○ アイヌの人びとがになう北方の交易
	近世 (4)	○ ザビエルとアンジロー ○ 琉球王国の使節 ○ 長崎に荷揚げされた砂糖 ○ ラクスマンと大黒屋光太夫
	近代 (2)	○ 6歳の子留学生 ○ 「モダン・タイムス」と「独裁者」
	現代 (3)	○ インディアラがやってきた ○ 東京オリンピック ○ 微力だけど無力じゃない
令 書	古代 (2)	○ 聖徳太子はなぜ仏教を受容したのか ○ 日本語の起源
	近代 (1)	○ 日本を小国から大国に押し上げた明治天皇
	現代 (2)	○ 古代オリンピックと近代オリンピック ○ オバマ大統領の広島訪問

【社会（歴史的分野）】

観点	(イ) 思考力、判断力、表現力等の育成
視点	④見方・考え方を働かせるための工夫
方法	特設ページ等を活用して思考させるための記載例

特設ページ等を活用して思考させるための記載例（近代）	
東 書	<p>○ 「メディアの発達が日本を変えた」</p> <p>【項目】 「電信・電話の導入」「新聞・雑誌の誕生」「映画・ラジオと大衆社会」</p> <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵図：①急ごしらえされた電信柱 ・写真：②「国民之友」創刊号の表紙 ・人物：③梅屋庄吉 ・コラム：「マスメディアと政府」 <p>【問い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「現代につながるマスメディアや情報環境がどのように成立したか、見てみましょう。」 ・「本文に登場するメディアは、現在の私たちの生活にどのように関わっているか、調べましょう。」
教 出	<p>○ 「人口の変化と海外への移民」</p> <p>【項目】 「過去の人口を知る方法」「日本の歴史と人口の移り変わり」「ハワイへの移住」「ブラジルへの移住」</p> <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真：①宗門改帳、③ハワイにある日本式の寺院、④ブラジルのコーヒー農園で働く日本からの移住者 ・文書資料 ・コラム：「国境を越える人々と多文化共生」 ・グラフ：②800年以降の人口の移り変わり <p>【問い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人口の移り変わりには、どのような特徴や背景があるのか探ってみましょう。」 ・「①右の表をもとにグラフを完成させよう。現在の人口は、調べて記入しよう。」 ・「②1900年以降の人口増加の最も大きな理由は何だろうか。グループで話し合おう。」 ・「③今から50年後、100年後の予測人口はどれくらいか調べよう。」 ・「いろいろな地域や国の、多文化共生の取り組みについて調べてみよう。」

特設ページ等を活用して思考させるための記載例（近代）	
帝 国	<p>○ 「世界に開かれた港 横浜 ～開港とともに広がった文明開化～」</p> <p>【項目】</p> <p>「1 横浜から広がった新たな文化 ① どうして横浜が港になったのかな？」 「2 外国商人の集まった街 横浜 ② 居留地はどのようなところだったのかな？」</p> <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵図：1 横浜、2 牛鍋を食べるざんぎり頭の男性、3 開通したころの鉄道、5 横浜港の様子、6 生糸の品質を調べる欧米の商人 ・ 写真：4 開港場が整備される前の横浜の様子、7 1872年の外国人居留地 ・ グラフ：8 全国に占める横浜港の貿易の割合、9 横浜港からの輸出入品 <p>【問い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「日米修好通商条約によって横浜が開港したけれど、当時の横浜はどのような所だったのかな。また、文明開化を迎えたとき、横浜からどのような新しい文化が各地に広まったのかな。」 ・ 「写真は、図1の地図内のどこからどの方向を撮影したものか、考えてみよう。」
山 川	<p>○ 「世界遺産・富岡製糸場から日本の近代を考える」</p> <p>【項目】</p> <p>「1 富岡製糸場とは」「2 明治日本と製糸業」</p> <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地図：1 富岡製糸場の位置 ・ 絵図：2 開業時の富岡製糸場 ・ 写真：3 富岡製糸場、4 繰糸場の内部、5 フランス式繰糸機、6 諏訪式繰糸機、7 座繰り器 ・ 文書資料：和田英「富岡日記」 ・ グラフ：8 生糸の生産量と生糸の輸出量、10 輸出品における生糸の割合 ・ 年表：9 明治日本と製糸業 <p>【問い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「富岡製糸場が果たした役割について考えていきましょう。」 ・ 「富岡製糸場は、なぜ群馬県の富岡に設立されたのだろうか。この地域で江戸時代から盛んな産業は何か、生糸をつくるためには何が必要かを考えてみよう。」 ・ 「内陸の群馬県から開港場の横浜まで、生糸はどのような方法で運ばれたのだろうか。」 ・ 「筆者はどのような部分に、おどろいているだろうか。」 ・ 「建物の特徴を挙げてみよう。」 ・ 「写真4を見て、工場内でどのような工夫がなされているか考えてみよう。」 ・ 「作業をしやすくするために建物にはどのような工夫がなされているだろうか。」 ・ 「器械を見比べてちがうところを探してみよう。」 ・ 「材質のちがいに注目してみよう。」 ・ 「グラフ8・10や年表9を見て、製糸業はどのように変わっていったのか考えてみよう。」 ・ 「明治時代の日本は、なぜ製糸業に力を入れたのか考えてみよう。」

特設ページ等を活用して思考させるための記載例（近代）	
日 文	<p>○ 「経済発展か、環境保全か、足尾鉍毒事件を通して考えよう」</p> <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地図：資料1 足尾銅山の鉍毒の被害 ・人物：田中正造 ・文書資料：資料3 田中正造の直訴状の内容、資料6 政府の主な対応 ・グラフ：資料4 日本の銅の生産量の推移、資料5 日本の輸出品に占める銅の割合 ・年表：資料2 足尾鉍毒事件の年表 <p>【問い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「1890（明治23）年ごろから、栃木県の足尾銅山の鉍毒が渡良瀬川に流れ出し、下流の田畑の作物が枯れ、魚が死ぬなどの被害が広がりました。また、銅山の煙害や用材のための森林の乱伐によって水源の山々ははげ山となり、1896年には大洪水が起こって、3万haをこえる土地が鉍毒におおわれました。こうしたなか、当時の人々はどのように対応したのでしょうか。銅山の操業停止と被害民の救済を求めた田中正造と政府の対応を学び、みなさんもこの問題について考えましょう。」 ・「田中正造はどのような事態を問題とし、帝国議会や天皇に何を訴えようとしたのでしょうか。」 ・「資料1～3から、足尾鉍毒事件の概要を確認して、田中正造の主張を読み取りましょう。」 ・「政府はなぜ、田中正造の訴えを全面的に認めなかったのでしょうか。またどうして、そのような決定をしたのでしょうか。」 ・「資料1・2と資料4～6を読み取り、当時の日本の状況と政府の方針との関連に着目しましょう。」 ・「あなたが当時の国民の一人だったら、国の経済発展と各地域の環境保全のどちらを重視し、優先しようと思いますか。ステップ1・2で読み取ったことなどをもとに、自分の考えをまとめましょう。」 ・「自分がそう考えた理由も整理して、クラスで意見交換をしましょう。」
自 由 社	<p>○ 「明治維新とは何か」</p> <p>【項目】</p> <p>「欧米列強の植民地化をまぬがれる」「2つの中心が日本を救った」「アヘン戦争で強い危機感」「米百俵」の伝統</p> <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人物：小林虎三郎 ・絵図：国漢学校の図 <p>【問い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「一国の統治者たちが、みずからその身分を廃止して新しい国をつくった世界に例のない改革は、なぜ実現できたのだろうか。」

【社会（歴史的分野）】

特設ページ等を活用して思考させるための記載例（近代）	
育 鵬 社	<p>○ 「外国人が見た日本」</p> <p>【項目】 「クラーク “少年よ大志をいだけ”」「ナウマン 「フォッサマグナ」を発見」「パーマー 横浜水道を造る」「考古学者シュリーマンが見た日本人」「動物学者モースが見た日本人」「女性旅行家バードが見た日本人」「医学者ベルツが見た日本人」</p> <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地図：③フォッサマグナ ・写真：④日本近代水道最古の水道管 ・人物：①さっぽろ羊ヶ丘展望台に立つクラーク像、②ナウマン、⑥シュリーマン、⑦モース、⑧イザベラ・バード、⑨ベルツ ・表：⑤主なお雇い外国人の業績 <p>【問い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「幕末から明治時代にかけて来日した「お雇い外国人」が、身近な地域にいたか調べましょう。」 ・「幕末から明治時代に来日した外国人は、日本のどこに関心を持ったのか、グループで話し合ひましょう。」
学 び 舎	<p>○ 「対話・討論にチャレンジ 「学問のすゝめ」をどう読むか」</p> <p>【項目】 「①「学問のすゝめ」を読み、要約する」「②感じたこと、思ったことをことばにして、対話・討論する」「③あるクラスの議論から」「④問いを深めていくということ、問いを学ぶということ」</p> <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人物：福沢諭吉 ・写真：「学問のすゝめ」1871年初版本 <p>【問い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「次の現代語訳をじっくりと読んでみましょう。」 ・「次に、一人ひとりが、この文章をどう読みとったのか、福沢の主張に賛成か、反対か、意見交流・討論をしてみましょう。」 ・「(1) 自分の意見をノートに書いてみましょう。」 ・「(2) それを、二人組のペア、グループ・班、クラスなどに対して話してみましょう。」 ・「(3) …ところで、福沢は「人はみな平等である」と主張しているのでしょうか、それとも「不平等や格差が存在するには、それなりの理由がある」ということを主張しているのでしょうか。」
令 書	<p>○ 福沢諭吉「学問のすゝめ」</p> <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人物：福沢諭吉 ・コラム：「福沢諭吉の母は偉かった」 <p>【問い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「「無秩序な西洋化」とはどのような意味だろうか？」 ・「日本史上、最も勉強して世の中に影響を与えた人物の一人・福沢諭吉は、どのような母に育てられたのでしょうか。」

【社会（歴史的分野）】

観点	(イ) 思考力、判断力、表現力等の育成
視点	⑤学習のまとめの工夫
方法	単元末のまとめにおける多面的・多角的に考察させるための記載例

記載例（中世の日本）	
東 書	<p>○ 「武士が生まれ、その支配が広がった中世の日本で、社会はどのように変化したのでしょうか。」という探究課題について、章の学習を振り返り、自分の考えを文章にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究課題の解決の前に、「政治の動き」「東アジアの情勢」「産業の発達」「文化の側面」の4つの視点から整理する学習活動を設定している。 ・探究課題の解決の前に、節の学習を振り返り、「なぜ武士は政権を立て、社会を動かすほどの力を持つようになったのでしょうか。」「東アジアでの交流が進み、産業や文化が発達する中で、民衆はどのようにして力を持つようになったのでしょうか。」という問いについて、まとめる場面を設定している。
教 出	<p>○ 「武士と民衆の成長によって、社会はどのように変化したのだろうか。」という章の問いについて、章の学習を振り返り、自分の考えを文章にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・章の問いをまとめる前に、中世の政治や文化について説明する学習活動を設定している。 ・「学習のまとめと表現の流れ」として、「HOP！中世の時代の移り変わりを確かめよう」「STEP！①中世の政治や文化について説明しよう」「STEP！②資料を読み解いて、中世の時代を振り返ろう」「JUMP！「歴史的な見方・考え方」を使って、時代の特色を考えよう」の場面を設定している。
帝 国	<p>○ 「武士による政治が行われたことによって、社会はどのように変化したのだろうか」という章の問いに対して、章の学習を振り返り、自分の考えを文章にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・章の問いをまとめる前に、中世の年表に記載している政治や国際関係の変化、生活や社会の様子について自分が重要と考える出来事にマーカーをつける学習活動を設定している。 ・単元の振り返りとして、「学習事項の確認」「節の振り返り」「章の振り返り」の場面を設定している。
山 川	<p>○ 中世のまとめとして、4つの立場で問いについて、自分の考えを文章にまとめる。「海外から受けた影響」「宗教の果たした役割」について、自分の考えを文章にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「武士」「農民」「守護」「荘園領主」の4つの立場を設定している。 ・4つの立場で考える際は、「鎌倉時代」から「戦国時代」の4つの時代区分ごとに自分の考えを文章にまとめ、「海外から受けた影響」「宗教の果たした役割」を考える際は、3つの区分ごとに自分の考えを文章にまとめる。
日 文	<p>○ 「絶えず戦乱がくり返される時代となったのは、なぜなのでしょう。」という編の問いについて、編の学習を振り返り、自分の考えを文章にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「法」という視点を例に、中世の特色について考え、文章にまとめ、他の視点からも、中世の特色について文章にまとめる場面を設定している。 ・単元の振り返りとして「いつ、どこで、何があった？」「中世ってどんな時代？」「中世の学習をふり返ろう」の場面を設定している。

【社会（歴史的分野）】

記載例（中世の日本）	
自由社	<p>○ 中世を振り返り、「中世とはどんな時代だったのだろうか」について、「中世はひとことという「○○」の時代だった。」として、○○を埋めて、200字以内の作文を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「北条時宗」と「足利義満」の中国とのかかわり方の違いについてまとめる場面を設定している。 ・作文を作る前に、「歴史用語ミニ辞典」の作成」「時代比較の問題」「人物比較の問題」の場面を設定している。
育鵬社	<p>○ 中世を振り返り、「武士が時代の主役になった中世は、どのような時代だったといえるのか」を考え、その理由と合わせてまとめ、それぞれの考えをみんなで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この時代の人々の暮らしや社会の変化について、「市場で品物を売り買いする人々」「機織り」「馬借」の絵を参考にして、説明する場面を設定している。 ・中世についてまとめる前に、年表の空欄にあてはまる言葉を選び、戦いについて整理し、この時代で最も重要だと思う人物を選び、理由をまとめる。次に、歴史的事象に当てはまる場所を地図上から選び、暮らしや社会の様子について、資料や前の時代の様子を参考にして説明する場面を設定している。
学び舎	<p>○ 中世を振り返り、「第2部・中世は、どのような人びとが力をもった時代だったでしょうか。前の時代と比べながら、自分の考えを文章にまとめましょう。」という問いについて、自分の考えを文章にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中世について、人々の政策や行動、アジアの国々や地域との交流の様子、産業の発達や民衆の行動、仏教や文化の新しい動きや特色といった視点でそれぞれまとめる場面を設定している。 ・中世についてまとめる前に、歴史的事象に当てはまる場所を地図上から選び、中世について4つの課題をまとめ、歴史絵画を解説・推理する場面を設定している。
令書	<p>○ 中世のまとめとして、4つの視点から、学習を整理する。また、日明貿易がどのように展開したかをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「政治」「文化」「外交」「産業」の4つの視点を示している。 ・中世のまとめの前に、鎌倉時代に登場した新しい仏教について表にまとめ、それぞれの仏教の特徴をグループの中で発表し合う場面を設定している。

観点	(ウ) 主体的に学習に取り組む工夫
視点	⑥単元の導入における工夫
方法	各単元の導入における学習の見通しをもたせるための工夫の具体例

具体例（近世の日本）	
東 書	<p>【構成の概要】 2ページを使い、二次元コード、小学校の社会で習った言葉、絵図と人物や歴史的事象のイラストを用いた年表、キャラクターの問い等や、資料の読み取り及び話し合い活動を示している。また、章や各節の学習課題とともに、キャラクターの問いにより、章及び各節の学習課題を導くよう構成している。</p> <p>【章の学習課題】 「近世の日本では、社会にどのような変化が見られたのでしょうか。」</p> <p>【各節の学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ヨーロッパ人との出会いを経て、なぜ戦乱の世が終わりをむかえたのでしょうか。」 ・「なぜ江戸幕府の支配は約260年も続いたのでしょうか。」 ・「産業や文化が発達し、都市が繁栄する中で、なぜ幕府は改革をせまられたのでしょうか。」 <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵図（①南蛮人の来航、②江戸城、③、④参勤交代の行列、⑤歌舞伎、⑥新しい農具⑦打ちこわしの様子） ・年表 <p>【資料に係る学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「(個人活動) ①・②にはどのような人々がえがかれているか、それぞれ読み取りましょう。」 ・「(グループ活動) ①でえがかれている様子と関連の深いイラストを、右ページの年表から選び、どのような関連があるのか説明しましょう。」 ・「(個人活動) ①～⑦の資料を参考にしながら、前の時代と比べて、この時代になって変化していること、変化せず続けていることはそれぞれ何か、話し合いましょう。」
教 出	<p>【構成の概要】 3ページを使い、二次元コード、絵図、写真、地図、キャラクターの問い等や、人物のイラストを用いた年表及び資料の読み取りを示している。また、章の学習課題とともに、章に係る説明を示し、各節のタイトル及び各節に關係する歴史的な事象を示している。</p> <p>【章の学習課題】 「近世の日本は、どのような政治のしくみをつくったのだろうか。」</p> <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵図（江戸城、江戸のまち①～⑤） ・写真（寛永通宝と慶長小判） ・年表 ・地図 <p>【資料に係る学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「1 上の絵に描かれている江戸城と、前のページに描かれている室町時代の将軍の邸宅（御所）を比べてみよう。建物や周辺の様子は、どのように変化したのだろうか。」 ・「2 なぜ日本で貨幣がつくられるようになったのだろうか。」 ・「3 室町時代から江戸時代にかけて、社会はどのように変化したのか予想してみよう。」 ・「Q1 ①～⑤には、どのような場所や人が描かれているだろうか。また、中世と比べて変わったところ、変わっていないところを考えてみよう。」 ・「Q2 江戸城やその城下町は、だれがどのようにつくったのだろうか。」 ・「Q3 中世と比べて、城下町や人々の暮らしが変化したのはなぜか、予想してみよう。」

【社会（歴史的分野）】

具体例（近世の日本）	
帝 国	<p>【構成の概要】 1 ページを使い、二次元コード、絵図、小学校で学んだ人物と主な出来事のイラストを用いた年表、キャラクターの問いを示し、話し合い活動や予想を書く活動を示している。章や各節の学習課題を示している。</p> <p>【章の学習課題】 「全国を統一する政権の誕生によって、社会はどのように変化したのだろうか。」</p> <p>【各節の学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ヨーロッパの国々による世界進出は、各地の生活や文化にどのような影響を与えたのだろうか。」 ・「全国統一が進むなかで、社会はどのように変化したのだろうか。」 ・「江戸幕府はどのようにして全国を支配したのだろうか。」 ・「なぜ江戸時代に産業や経済が発達したのだろうか。」 ・「なぜ幕府はさまざまな改革を行ったのだろうか。」 <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵図（①「会津藩主参勤交代行列図」） ・年表 <p>【学習活動】</p> <p>○「「学習する時代の見通し」をもとう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「これから学習する時代について、どのような時代なのか、ほかの人と話し合ってみよう。その際、小学校で学習した人物や主な出来事、前の章で学習した時代の特色を踏まえよう。」 ・「この時代では、前の章で学習した時代からどのように社会が変化するか、予想を書こう。」
山 川	<p>【構成の概要】 2 ページを使い、これから学習する内容を日本史と世界史に分けて年表で示すとともに、章全体に係る説明を示し、日本史と世界史の主な歴史的事象の写真や絵図を示している。</p> <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真（姫路城、オスマン帝国の都となったイスタンブルの街、サン＝ピエトロ大聖堂、タージ＝マハル、ヴェルサイユ宮殿） ・絵図（長篠の戦い、「南蛮屏風」、「最後の晚餐」、コロンブスの上陸、検地の様子、出帆を待つ菱垣廻船、聖堂学問所での講義、オランダ正月、大塩の乱、ボストン茶会事件） ・年表

具体例（近世の日本）	
日 文	<p>【構成の概要】 4ページを使い、絵図、二次元コード、人物のイラストを用いた年表、写真、地図、キャラクターの問い等や、資料の読み取り、話し合い活動及び予想を書く活動を示している。章や各節の学習課題を示すとともに、キャラクターの言葉から章の学習課題を導くよう構成している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 章の学習課題 「戦乱のない安定した時代は、どのように続いたのでしょうか。」 ○ 各節の学習課題 <ul style="list-style-type: none"> ・「ヨーロッパ人の来航や信長・秀吉の統一事業は、それまでの社会をどのように変えたのでしょうか。」 ・「江戸幕府は人々をどのように支配していたのでしょうか。」 ・「江戸時代の社会と政治は、どのように移り変わっていったのでしょうか。」 <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵図（1室町幕府の将軍が政治を行った建物のようす、2江戸幕府の将軍が政治を行った建物のようす、4ムスリム商人の船） ・年表 ・地図 ・写真（3イスタンブール） <p>【学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「「近世」という時代のイメージをつかもう」 <ul style="list-style-type: none"> ・「1と2の特徴やちがいを読み取り、話し合しましょう。」 ・「室町幕府の将軍邸（室町殿）と江戸城を比べると、大きさにちがいはあるか。」 ・「それぞれの建物の特徴にちがいはあるか。」 ・「今のあなたが考える「近世」という時代のイメージを書き出しましょう。」 ○ 「年表から「近世」という時代を見通そう」 <ul style="list-style-type: none"> ・「年表を読み取り、話し合しましょう。」 ・「小学校で学んだ人物は、いつぐらいに登場しているか。」 ・「政治、社会、外交、文化の面で、いつ、どのようなことが起こっているか。」 ・「世界ではどのようなことが起こっているか。」 ○ 「日本と世界のつながりを確認しよう」 <ul style="list-style-type: none"> ・「地図を読み取り、話し合しましょう。」 ・「P.67の地図と比べて、ユーラシア大陸の国々はどのように変化しているか。」 ・「「近世」の日本と世界は、どのようにつながっていたか。」
自由 社	<p>【構成の概要】 1ページを使い、絵図、キャラクターの問い等とともに、小学校で学んだ近世の人物のイラストを時代順に示している。</p> <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵図（三浦屋の高尾、タンギー爺さん、五十三次名所図会 石薬師、雲龍打掛の花魁）

具体例（近世の日本）	
育 鵬 社	<p>【構成の概要】 4ページを使い、年表、絵図、人物や歴史的事象のイラストを時代順に示し、キャラクターの問い等や資料の読み取りを示している。章全体に係る説明を示し、章及び各節の学習課題を示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 章の学習課題 江戸時代の安定した社会は、どのようにして形成され、維持されたのでしょうか ○ 各節の学習課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパとの出会いによって、日本は、どのように変化していったのでしょうか。 ・長く続いた戦乱の世は、どのようにして終わっていったのでしょうか。 ・江戸幕府が長い間、支配を続けることができたのは、なぜでしょうか。 ・産業や交通の発達する中で、どのような文化が盛んになったのでしょうか。 ・江戸幕府は、なぜ、改革をせまられたのでしょうか。 <p>【資料】 ・年表 ・絵図（「江戸図屏風」）</p> <p>【資料に係る学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ この絵から、どんなことが分かるでしょうか？ Q1 「日本橋がかかる川の両岸では、どのような荷物があつかわれているのでしょうか。」 Q2 「日本橋の右手には、大店といわれる大きな館が軒を連ねています。建物には、どのような特徴がありますか。」 Q3 「どのような身分・職業の人たちがえがかれていますか。それは、どのようなところから分かりますか。」 Q4 「このころの日本橋の町の区画は、どのようになっているのでしょうか。」 Q5 「日本橋の左側には、高札（立て札）がえがかれています。高札は、どのようなことに使われていたのでしょうか。」
学 び 舎	<p>【構成の概要】 2ページを使い、年表、写真、絵図を示し、それぞれの歴史的事象が関連する位置を地図に示している。章の学習課題を示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 章の学習課題 海洋を行き来して、遠く離れた国と国がつながります。人びとの交流が新しい時代を開きます。地域と地域がつながって、新しい文化が育ちます。天下を統一した武将たち、力をつけた百姓・町人たちの姿を見ていきましょう。地域に残る歴史の跡や資料からも、当時の人びとの生活を見ることができます。近世の新しい動きを、さまざまな角度から考えてみましょう。 <p>【資料】 ・年表 ・地図 ・絵図（鉱山で働かされるアメリカ先住民、奴隷い船の内部のようす、イスタンブールの天文台、南蛮船から下ろされた荷物） ・写真（トマト・トウモロコシ・トウガラシ、コショウの実、石見銀）</p>
令 書	<p>【構成の概要】 2ページを使い、絵図及び歴史的事象を示した年表を示し、政治・外交・文化・産業の4つの視点で章の学習課題を示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 章の学習課題 政治「江戸幕府はなぜ、長期安定の政権になったのでしょうか」 外交「江戸時代の外交は鎖国期から開国にかけてどのように変化していったのでしょうか」 文化「平和な江戸時代に生まれた豊かな文化はどんなものがあるのでしょうか」 産業「当時、世界有数の都市といわれた江戸の暮らしはどのように便利になっていったのでしょうか」 <p>【資料】 ・絵図 ・年表</p>

観点	(ウ) 主体的に学習に取り組む工夫
視点	⑦課題の設定、整理・分析、振り返りを展開するための工夫
方法	「身近な地域の歴史」で示している記載の仕方及び調べる手順・方法

記載の仕方及び調べる手順・方法	
東 書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 記載の仕方 <ul style="list-style-type: none"> ・「第1章 歴史へのとびら」に「2節 身近な地域の歴史」を設け、調べ学習における学習のポイントを示している。 ・「地域の歴史を調べよう」という特設ページを設け、身近な地域の歴史に関する調べ学習の例を示している。 ○ 調べる手順・方法 <ol style="list-style-type: none"> 1 テーマと問いを設定して調査・考察しよう <ol style="list-style-type: none"> 1 テーマと問いの設定 <ul style="list-style-type: none"> ・調べるテーマを見つけよう 2 調査 <ul style="list-style-type: none"> ・主な調査方法（図書室・図書館を利用する、インターネットを利用する、博物館・美術館を利用する、郷土資料館など地域の施設を利用する、遺跡や遺物を見学する、聞き取り調査・リモート取材をする） ・書籍で調べよう（歴史上の出来事を調べる、時代や年代から調べる、人物・地名を調べる、郷土史を調べる） ・インターネットで調べよう（役に立つウェブページ、利用上の注意） 3 考察 2 まとめと発表をしよう <ol style="list-style-type: none"> 4-1 まとめ <ul style="list-style-type: none"> レポートやスライドの構成 <ul style="list-style-type: none"> ・レポートにまとめよう ・プレゼンテーションソフトでスライドにまとめよう 4-2 発表 5 ふり返り
教 出	<ul style="list-style-type: none"> ○ 記載の仕方 <ul style="list-style-type: none"> ・「第1章 歴史のとらえ方・調べ方」に「2節 身近な地域の歴史を調べよう」を設け、調べ学習における学習のポイントを示している。 ・「身近な地域の歴史を調べよう」という特設ページを設け、身近な地域の歴史に関する調べ学習の例を示している。 ○ 調べる手順・方法 <ol style="list-style-type: none"> 1 情報を集めて問いを立てよう ▷地域にはどのような歴史があるのかな <ul style="list-style-type: none"> ・小学生のときの学習を思いだそう ・調査全体の見通しを立てよう（1情報を集めて問いを立てよう、2実際の調査を進めよう、3整理して考察しよう、4調査の結果をまとめよう、5発表して振り返ろう） ・情報を集めよう ・学校図書館を活用しよう（調査に役立つ図書、図書の探し方） ・インターネットを活用しよう（インターネットの検索、利用するときの注意点） ・「調査テーマ」を決めよう ・意見を共有して、アイデアをまとめよう 2 実際の調査を進めよう ▷調査テーマについてどのようなことがわかるかな <ul style="list-style-type: none"> ・メモを取ろう 3 整理して考察しよう ▷調べたことから何がわかったかな 4 調査の結果をまとめよう ▷どのように表現したら相手により伝わるかな 5 発表して振り返ろう ▷お互いの発表から何を学び合えるかな

記載の仕方及び調べる手順・方法	
帝 国	<ul style="list-style-type: none"> ○ 記載の仕方 <ul style="list-style-type: none"> ・「第1章 歴史のとらえ方と調べ方」に「第2節 歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた」を設け、調べ学習における学習のポイントを示している。 ・「歴史を探ろう」という特設ページを設け、身近な地域の調べ学習の例を示している。 ○ 調べる手順・方法 <ol style="list-style-type: none"> 1 歴史の謎を探ろう <ul style="list-style-type: none"> ・町のなかの気になる場所に行ってみよう。 ・情報の集め方（①図書館、②博物館・資料館、③インターネット） 2 資料をよく見てヒントを探そう <ul style="list-style-type: none"> ・博物館や資料館などに行ってみよう ・図書館などでヒントを探してみよう ・詳しい方に質問してみよう ・新たな発見をしにいこう ・野外・聞き取り調査のしかた ・年表のつくり方・地図のつくり方 3 謎解きの答えをまとめよう <ul style="list-style-type: none"> ・今との関わりを考えよう ・自分たちの考えを表現しよう ・クラスみんなに発表しよう ・レポートのまとめ方、発表のしかた
山 川	<ul style="list-style-type: none"> ○ 記載の仕方 <ul style="list-style-type: none"> ・「第1章 歴史との対話」に「2節 身近な地域を調べよう」を設け、調べ学習における学習のポイントを示している。 ・「地域からのアプローチ」というページを設け、身近な地域の歴史に関する調べ学習の例を示している。 ○ 調べる手順・方法 <ol style="list-style-type: none"> 1 テーマを設定しよう！ <ul style="list-style-type: none"> ・テーマを見つけるには 2 さあ調査だ！ <ol style="list-style-type: none"> ① 図書館を利用しよう <ul style="list-style-type: none"> ・図書館での文献調査 ② 荒川ふるさと文化館に行ってみた <ul style="list-style-type: none"> ・博物館の展示品と展示図録 ③ インターネットで昔の地図を見てみた <ul style="list-style-type: none"> ・ウェブページの信頼性 ・古い地図を入手するには ④ 聞き取り調査をしよう <ul style="list-style-type: none"> ・聞き取り調査の注意点 ⑤ フィールドワークで道灌山周辺を実際に歩いてみた <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークの注意点 3 レポートをつくって発表しよう！ <ol style="list-style-type: none"> ① レポートにまとめよう <ul style="list-style-type: none"> ・レポートの書き方 ・参考文献 ・引用と盗用 ② 発表しよう <ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい伝え方 ・スライドのつくり方

記載の仕方及び調べる手順・方法	
日 文	<ul style="list-style-type: none"> ○ 記載の仕方 <ul style="list-style-type: none"> ・「第1編 私たちと歴史」に「第2節 身近な地域の歴史の探究—大阪市内を例に—」を設け、調べ学習における学習のポイントを示している。 ・「でかけよう！地域調べ」という特設ページを設け、調べ学習における学習のポイントを示している。 ○ 調べる手順・方法 <ol style="list-style-type: none"> 1 テーマを決めて調査の準備をしよう <ul style="list-style-type: none"> ・学習のはじめに <ul style="list-style-type: none"> ①地域調べをする理由を明確にするための視点 ・調査の全体像（テーマの決定、課題の調査、考察とまとめ） ①調査のテーマを決めよう ②テーマについて調べよう <ul style="list-style-type: none"> ・引用のしかた 2 課題を設定して、調査しよう <ul style="list-style-type: none"> ③調査の課題を設定しよう ④調査をしよう <ul style="list-style-type: none"> ・聞き取り調査のしかた 3 考察し、まとめたことを報告しよう <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションソフトを活用した報告の仕方 ⑤調査したことをまとめよう <ul style="list-style-type: none"> ②調査課題に対する考察の視点 ⑥調査したことを伝えよう <ul style="list-style-type: none"> ③報告・発表するときを示すこと ④発表を聞く時に意識すること ・活動をふり返ってみよう ⑤ふり返るときの視点
自 由 社	<ul style="list-style-type: none"> ○ 記載の仕方 <ul style="list-style-type: none"> ・「序章 歴史のとらえ方」に「第3節 地域の歴史を調べる」を設け、調べ学習の具体例を4つ示している。 ・大単元の最後に「調べ学習のページ」を設定し、調べ学習の進め方やまとめの具体例等を示している。 ○ 調べる手順・方法 <ul style="list-style-type: none"> ・「地域の歴史を調べる」において、A～D班の4つの班に分かれて調査を行った内容をそれぞれがまとめた文章として掲載している。 A班 古墳を調査 B班 港を調査 C班 千利休の屋敷跡を調査 D班 堺事件を調査
育 鵬 社	<ul style="list-style-type: none"> ○ 記載の仕方 <ul style="list-style-type: none"> ・序章に「④身近な地域の歴史の調べ方」を設け、調べ学習における学習のポイントを示している。 ・序章及び第4章において、「地域の歴史を調べてみよう」という特設ページを設け、調べ学習における学習のポイントを示している。 ○ 調べる手順・方法 <ol style="list-style-type: none"> ①テーマを決める ②調査をする（（1）事前調査、（2）実地調査（調査活動を行なう際に便利な道具）） ③分類・分析・整理をする ④発表する（まとめ）
学 び 舎	<ul style="list-style-type: none"> ○ 記載の仕方 <ul style="list-style-type: none"> ・「歴史への案内」に「4 地域の博物館で調べる」を設け、地域の博物館での調べ学習や現地調査における学習のポイントを示している。 ○ 調べる手順・方法 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の博物館で調べる ・地域の歴史について、上手に調べ、発表するために <ol style="list-style-type: none"> ①どこを歩き、何を見るのか、何を調べるのか、あらかじめチェックしておきましょう。 ②地域の方、博物館の学芸員、説明員に積極的に質問してみましょう。 ③わかったこと、さらに調べてみようと思うことなど、メモしておきましょう。 ④写真も撮っておきましょう（ただし、写真は許可をえてから撮るようにしましょう）。 ⑤調べたことを、レポートや地図にまとめ、グループやクラスで発表しましょう。

【社会（歴史的分野）】

記載の仕方及び調べる手順・方法	
令 書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 記載の仕方 <ul style="list-style-type: none"> ・「序 国史を学ぶにあたって」に「三 グループで歴史を調べよう」を設け、調べ学習における学習のポイントを示している。 ・「第三章」「第四章」「第五章」において「field work」に具体的な課題を示している。 ○ 調べる手順・方法 <ul style="list-style-type: none"> イ テーマを決める ロ 疑問を持つ ハ 調べる ニ まとめる ホ 発表する ヘ 振り返る

【社会（歴史的分野）】

観点	(エ) 内容の構成・配列・分量
視点	⑧ 単元や資料等の配列・分量
方法	各時代区別のページ数

	歴史との対話	古代	中世	近世	近代	現代
東書	14	42	34	46	100	32
教出	17	40	36	48	108	36
帝国	12	48	42	56	114	32
山川	9	48	40	52	100	30
日文	12	46	40	50	104	34
自由社	12	50	36	44	106	33
育鵬社	14	40	32	50	98	36
学び舎	8	44	32	48	110	36
令書	13	102	64	86	142	49

【社会（歴史的分野）】

観点	(エ) 内容の構成・配列・分量
視点	⑨主権者育成のための工夫
方法	古代、近代、現代における民主主義の来歴や人権思想の広がりについての記載内容

	記載内容		
	古代	近代	現代
東書	○ 「ギリシャ・ローマの文明」というタイトルで2ページを使って記載し、「アクロポリスとパルテノン神殿」「古代ローマの支配領域」等の資料を掲載している。	○ 「イギリスとアメリカの革命」「フランス革命」というタイトルで4ページを使って記載し、「アメリカ独立宣言」「人権宣言」等の資料を掲載している。	○ 「民主化と日本国憲法」というタイトルで2ページを使って記載し、「日本国憲法前文」「初の男女普通選挙」等の資料を掲載している。
教出	○ 「すべての道はローマに通ず」というタイトルで2ページを使って記載し、「アテネのパルテノン神殿」「古代ローマの領域」等の資料を掲載している。	○ 「王は君臨すれども統治せず」「代表なくして課税なし」というタイトルで4ページを使って記載し、「権利の章典」「人権宣言」等の資料を掲載している。	○ 「敗戦からの再出発」「平和国家をめぐって」というタイトルで4ページを使って記載し、「女性の国会議員の誕生」「日本国憲法の前文」等の資料を掲載している。
帝国	○ 「ギリシャとローマの政治と文明」というタイトルで2ページを使って記載し、「パルテノン神殿」「東西の大国と交易のつながり」等の資料を掲載している。	○ 「市民革命の始まり」「人権思想からフランス革命へ」というタイトルで4ページを使って記載し、「アメリカ独立宣言の採択」「人権宣言」等の資料を掲載している。	○ 「新時代に求められた憲法」というタイトルで2ページを使って記載し、「あたらしい憲法のはなし」「初めての女性国会議員」等の資料を掲載している。
山川	○ 「地中海文明の発展」というタイトルで2ページを使って記載し、「アクロポリスに建つパルテノン神殿」「円形闘技場」等の資料を掲載している。	○ 「市民革命の時代」というタイトルで4ページを使って記載し、「独立宣言」「バスティーユ襲撃」等の資料を掲載している。	○ 「占領下の日本」「日本国憲法と民主化」というタイトルで4ページを使って記載し、「女性の衆議院議員」「日本国憲法」等の資料を掲載している。
日文	○ 「ギリシャ・ローマの文明」というタイトルで2ページを使って記載し、「パルテノン神殿」「ローマ帝国の支配圏」等の資料を掲載している。	○ 「王政から議会制へ」「アメリカの独立とフランス革命」というタイトルで4ページを使って記載し、「権利の章典」「人権宣言」等の資料を掲載している。	○ 「占領と改革の始まり」「平和で民主的な国家をめぐって」というタイトルで4ページを使って記載し、「日本国憲法公布の祝賀会」「投票する女性有権者」等の資料を掲載している。
自由社	○ 「ギリシャ・ローマの文明」というタイトルで2ページを使って記載し、「古代アテネ復元図」「大西洋から黒海沿岸を支配したローマ帝国」等の資料を掲載している。	○ 「イギリスの市民革命とアメリカの独立」「啓蒙思想とフランス革命」というタイトルで4ページを使って記載し、「権利章典」「人権宣言」等の資料を掲載している。	○ 「占領下の日本」というタイトルで2ページを使って記載し、「日本最初の婦人代議士」「占領軍の進めた戦後の主な改革」等の資料を掲載している。

【社会（歴史的分野）】

	記載内容		
	古代	近代	現代
育鵬社	○ 「ギリシャとローマの文明」というタイトルで2ページを使って記載し、「パルテノン神殿」「コロッセオ」等の資料を掲載している。	○ 「イギリスの革命とアメリカ独立」「フランス革命」というタイトルで4ページを使って記載し、「アメリカ独立宣言」「人権宣言」等の資料を掲載している。	○ 「民主化と日本国憲法制定」というタイトルで2ページを使って記載し、「初めての女性国会議員」「英文で書かれた日本国憲法の草案」等の資料を掲載している。
学び舎	○ 「円形競技場の熱狂」というタイトルで2ページを使って記載し、「紀元前5世紀ごろのギリシアとペルシア」「ローマ帝国の広がり」等の資料を掲載している。	○ 「アメリカの大地に生きる」「バスチーユを攻撃せよ」というタイトルで4ページを使って記載し、「ボストン港でのイギリスへの抗議行動」「ベルサイユ宮殿へ向かう民衆」等の資料を掲載している。	○ 「焼け跡からの出発」「もう戦争はしない」というタイトルで4ページを使って記載し、「街頭演説をする山口シヅエ」「あたらしい憲法のはなし」等の資料を掲載している。
令書	○ 「ギリシャ・ローマの文化」というタイトルで3ページを使って記載し、「アレクサンドロス大王」「フォロ・ロマーノ」の資料を掲載している。	○ 「イギリス革命とアメリカ独立戦争」「啓蒙思想とフランス革命」というタイトルで8ページを使って記載し、「アメリカ独立宣言」「人権宣言」等の資料を掲載している。	○ 「大日本帝国憲法の改正」というタイトルで5ページを使って記載し、「日本国憲法原本上論」等の資料を掲載している。

【社会（歴史的分野）】

観点	(オ) 内容の表現・表記
視点	⑩学習内容との関連付けがなされた絵図・写真等の活用
方法	資料の種類（二次元コードを含む）及び掲載数

	「近代の日本と世界」における資料の種類及び掲載数							
	写真	絵図	地図	図表・グラフ	文書資料	年表	人物	二次元コード
東書	125	84	32	26	47	3	57	49
教出	109	80	28	32	22	3	55	6
帝国	129	73	37	38	2	3	62	20
山川	123	66	31	37	19	0	47	11
日文	116	69	31	37	34	31	61	60
自由社	68	71	22	14	60	5	34	0
育鵬社	78	68	33	36	20	3	77	2
学び舎	136	58	32	20	1	0	39	0
令書	29	20	4	8	29	3	27	0

【社会（歴史的分野）】

観点	(オ) 内容の表現・表記
視点	㊦掲載されている情報を精選し、視点を明確にする工夫
方法	ユニバーサルデザインに関する配慮がなされたフォント・グラフ及びレイアウト等

	フォント・グラフ	レイアウト等
東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ ユニバーサルデザインフォントを使用している。 ○ 円グラフ及び帯グラフでは、グラフに文字や数値を入れ、隣り合うデータは縁取りをして区切りを入れている。 ○ 複数の項目を含んだ折れ線グラフでは、データごとに色を変えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文ページ見開きのレイアウトを統一し、本文の部分と側注等の資料の掲載部分を色分けしている。 ○ ページ隅の色分け、見開き右側の年表及び下部の記載で、学習内容を示している。
教出	<ul style="list-style-type: none"> ○ ユニバーサルデザインフォントを使用している。 ○ 円グラフ及び帯グラフでは、グラフに文字や数値を入れ、隣り合うデータは縁取りをして区切りを入れている。 ○ 複数の項目を含んだ折れ線グラフでは、データごとに色を変え、実線で示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文ページ見開きのレイアウトを統一し、本文の部分と側注等の資料の掲載部分を色分けしている。 ○ ページ隅の色分け及び下部の記載で学習内容を示している。
帝国	<ul style="list-style-type: none"> ○ ユニバーサルデザインフォントを使用している。 ○ 円グラフ及び帯グラフでは、グラフに文字や数値を入れ、隣り合うデータは縁取りをして区切りを入れている。 ○ 複数の項目を含んだ折れ線グラフでは、データごとに色を変えている。 ○ グラフの周囲を周りと違う色にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文ページのレイアウトを統一している。 ○ ページ隅の色分け及び見開き右側の年表で学習内容を示している。
山川	<ul style="list-style-type: none"> ○ ユニバーサルデザインフォントを使用している。 ○ 円グラフ及び帯グラフでは、グラフに文字や数値を入れている。 ○ 複数の項目を含んだ折れ線グラフでは、データごとに色を変えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文ページのレイアウトを統一している。 ○ ページ隅の色分け及び下部の記載で学習内容を示している。
日文	<ul style="list-style-type: none"> ○ ユニバーサルデザインフォントを使用している。 ○ 円グラフ及び帯グラフでは、グラフに文字や数値を入れ、隣り合うデータは縁取りをして区切りを入れている。 ○ 複数の項目を含んだ折れ線グラフでは、データごとに色を変えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文ページ見開きのレイアウトを統一している。 ○ ページ隅の色分け及び見開き右側の年表で学習内容を示している。
自由社	<ul style="list-style-type: none"> ○ 円グラフでは、グラフに文字や数値を入れている。 ○ 複数の項目を含んだ折れ線グラフでは、データごとに色を変え、実線で示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文ページ見開きのレイアウトを統一している。 ○ ページ隅の色分け、見開き左下部の年表及び下部の記載で学習内容を示している。

【社会（歴史的分野）】

	フォント・グラフ	レイアウト等
育 鵬 社	<ul style="list-style-type: none"> ○ ユニバーサルデザインフォントを使用している。 ○ 円グラフ及び帯グラフでは、グラフに文字や数値を入れ、隣り合うデータは区切りを入れている。 ○ 複数の項目を含んだ折れ線グラフでは、データごとに色を変えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文ページ見開きのレイアウトを統一している。 ○ ページ隅の色分け及び見開き左下部の年表で学習内容を示している。
学 び 舎	<ul style="list-style-type: none"> ○ 円グラフ及び帯グラフでは、グラフに文字や数値を入れている。 ○ 複数の項目を含んだ折れ線グラフでは、データごとに色を変えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文ページ見開きのレイアウトを統一している。 ○ ページ隅の色分けで学習内容を示している。
令 書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文は縦書きで示し、脚注は横書きで示している。 ○ 円グラフでは、グラフに文字や数値を入れている。 ○ 複数の項目を含んだ折れ線グラフでは、データごとに濃淡を変え、実線で示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ページ下部の記載で学習内容を示している。